

Ohmi Net

あうみネット

あうみネット

Communication Paper for Voluntary Network in Ohmi

人と人を結ぶ♥ 作 杉尾尚子

ネットストーリー

“世界湖沼会議” 編



シリーズ~NPOへの素朴な疑問~<第4回>

NPOは金儲けしたらダメ?

市民&企業&行政ネット

め・と・て・とねっと

油藤商事株式会社

環境にやさしいガソリンスタンドとして、エコロジーの便利ステーションをめざしたい。

あうみネット リレーエッセイ

トピックス

世界湖沼会議からみた市民活動の動き

スポットライト

私たちががんばってます!NPO

- びわこネイチャーゲームの会
- 滋賀の食事文化研究会
- 土山の町並みを愛する会

伝言板 11月・12月

センターインフォメーション

NPO交流会inぎふ
世界湖沼会議・
自由会議情報 ほか

November

No. 26

2001・11

淡海ネットワークセンター

淡海ネットワークセンターは、県内の市民活動、NPOをサポート・ネットワークしています。

シリーズ～NPOへの素朴な疑問～

[NPOって ナニ?]

第4回 NPOは金儲けしたらダメ?

前回のコラムで、NPOの持つ非営利の意味を、利益が出た場合に配分しないということだと書いた。しかし、非営利と聞いて単純に金儲けをしたらダメだと思っている人もまだまだ多い。市民団体の中でもボランティア団体と呼ばれるものは、ボランティアだけで運営しているため、通常金儲けという発想はない。自分たちの時間と金を使って活動する場合がほとんどであるからだ。ボランティア団体の場合、事務所を構えているケースもあまりない。そこにボランティア型の活動の一定の限界があると言えよう。

それと比較して、継続的な社会サービスを提供するような事業型の市民団体では、事務所を構え、有給のスタッフを抱えるのが一般的である。こうした団体には事務所経費や人件費がかかるようになり、どうしても収益性のある事業を団体運営のメインにする必要が出てくる。しかし、NPOが行う事業は、通常あまり儲からないケースが多く、そこで会費、寄付金、助成金等のいろいろな資金づくりを必要としている。

NPOは儲けてもいいのだが、あまり儲からないというのが現状である。儲からないとはいうものの、では、実際にNPOが儲けた場合の利益はどうするのだろうか。利益配分をしてはいけないので、当然、職員に規定以上の報酬を払ったり、役員で山分けすることは許されない。一般に言われているのが、ミッション=社会的使命・目的のために使うということである。その意味で、NPOはミッション志向の団体という言い方をする場合もある。

では、NPOが儲けるといのはどういうことなのだろうか。NPO先進国のアメリカでは、数千万円の報酬を得るNPOの理事もいるらしいが、日本では悲しいかな役員報酬もスタッフ給料も非常に安く、その身分保障も十分になされていないケースが多い。こうした中で、たまたま収益が生まれ、法人税が課税されてしまうこともある。企業並みの身分保障がされ、スタッフにもそれなりの給料が払われているのであれば問題ないが、そうした現状で、企業と同等の法人税を課税されるというのはいかがなものか。NPOが企業並みの法人税を払えるほど儲けられる社会が来ることを望みつつ、課税の仕組みを一から考える必要があると思われる。(市民熱人)

参考文献 NPO基礎講座(山岡義典編著、ぎょうせい、1997年)

めとてとねっと

市民&企業&行政ねっと

環境にやさしいガソリンスタンドとして、 エコロジーの便利ステーションをめざしたい。

油藤商事株式会社



アイデア満載のリサイクルウイパーを手にする青山さん。

環境に配慮した商品の普及に取り組む「グリーン購入ネットワーク」（事務局・東京都）が選ぶ「第4回グリーン購入大賞」で、県内から豊郷町のガソリンスタンド経営「油藤商事」が中小事業者部門で大賞に選ばれました。家業を継いで環境旋風を巻き起こした4代目の青山裕史さんに、環境問題に取り組み出したきっかけを伺ってみました。

「3年ほど前から地域や家庭、行政で環境保全活動が盛んになっていました。我が身を振り返ったとき、ガソリンスタンドは対極にあると気づいて愕然としたんです。」以来、何かできるはずと思考錯誤の末、空き缶や牛乳パック、乾電池や廃バッテリーなどあらゆる資源ゴミの回収ステーションにたどり着きました。「ふつう分別ゴミの回収日や回収場所は決まっています。GSなら365日



リサイクルや時事ネタなど毎月ミニコミ紙を発行。

ペットボトルを再利用したGSの備品。

持込が可能でしょ。便利と思ってもらえたのか、主婦の口コミでパツと広がって…資源回収が来店動機になるというおまけも付きました。」資源回収だけでなく、自社で使用する事務用品、用紙、洗剤等についてグリーン購入を進めています。特に天ぷら油の回収は、それを原料に製品化された液体石けんをあらためて購入し、同ガソリンスタンドで洗車機の洗浄剤として利用するなど徹底したこだわりが、資源循環型の実践として高く評価を受けました。



牛乳パックは環境生協へ。アルミ缶は小学校の備品に交換される。

最近では全国から講演依頼や取材、他店舗からの問い合わせが殺到し忙しく動き回る青山さん。「地域のエコ・ステーションが県内あちこちできるとよいと思います。環境問題は本当に面白い。まだまだやりたいことがいっぱいです。」ガソリンスタンド利用者のみならず、地域住民への意識啓発や影響も大きく、グリーン購入と回収、リサイクルが相乗効果をもたらす環境共生型の新しいビジネスのカタチを提案しています。

[<http://www.dokohiko.net/aburatou/aburatou.htm>]

油藤商事株式会社

犬上郡豊郷町高野瀬645 TEL.0749-35-2081 FAX.0749-35-2083 h-aoyama@mtc.biglobe.ne.jp

人との「^{ぬく}温い」つながりをもっと広げたい

心をむすんで* リレーエッセイ

「ライオの番組作りをしていると、本当に様々な方とお会いします。地域の産物をにこやかに販売されている婦人会の方。懐かしい音色のハーモニカを演奏するお爺さん。生き生きと伝統文化を守り育む地域の方など。今迄にお会いした沢山の方々の話題をラジオで紹介するという事は、ラジオの前の皆さんがそこでまた、耳から始まる新しい出会いがあるのだと思います。」ラジオって、いろんな想像を巡らせて聞けるから楽しいね」と言われます。ラジオは人の出会いとイメージネーションがキーワードではないでしょうか。温かいお風呂にドボンとゆっくりつかれる様に、じわーっとあたたまって、ホッと出来る様な、電波を通じたキャッチボール。人との「温い」つながりをもっと広げたい思いで一杯です。



KBS滋賀ラジオ ディレクター
小林秀野

今回は
水口町立碧水ホール
上村秀裕さんです。

世界湖沼会議からみた市民活動の動き

11月11日から16日まで、第9回世界湖沼会議が開催されます。今回の会議は、これまで以上に市民の関わりが強調されています。世界湖沼会議実行委員会事務局の深田富美男さんと滋賀県環境生活協同組合理事長の藤井絢子さんへのインタビュを通じて、世界湖沼会議に関わる市民団体の動きを探ります。

T

世界湖沼会議実行委員会事務局

深田富美男さん



●湖沼会議に市民が関わるようになったきっかけを教えてください。

深田 湖沼の環境保全活動は、行政だけでは限界があるのが現実です。行政ができることは法律や制度、ハード整備など枠組みを作ることだと思いますが、実際、下水道が普及したり条例ができて、環境がよくなったと言ってもらえませんが、みんなですらうたらよいかを考えて、みんなで決めていかないと、動かなくなっていると思います。また、市民、企業、研究者、行政などの関係者が一緒になって、この

問題について情報を共有し、議論していこうとするきっかけが湖沼会議です。関係者が分野を超えて一堂に会する機会を作ることが湖沼会議を開催する意義の一つです。

●具体的にどのように市民が関わっているのですか。

深田 湖沼会議自体は全体会議と5つの分科会からなっていますが、全て企画段階から市民やNGOにも参加してもらって、自由に議論して決めていただいています。参加型で進めてきましたので、多くの人が納得する会議となってきたと思います。しかし、分科会での議論は時間が限られていますし、現地ですらないと市民活動や企業活動も十分反映されません。そこで、湖沼会議にあわせて市民や環境保全団体が自由に企画運営する「自由会議」があります。これは、湖沼会議の一環として開催されるもので、51の自由会議が予定されています。
(センターインフォメーション参照)

●初回（1984年）と今回で、違うところはどこでしょうか。

深田 初回は、異なる分野の人々が集まる最初の試みで、意見を交換するまでにはなりません。第2回から一般公募で、論文を出して発表できるというスタイルになりましたが、今回は、論文でなくもっと市民が参加しやすい「発表」というスタイルに変えました。議論する内容も初回とは大きく変わっているのではないかと思います。第1回開催時は、琵琶湖が抱えていた富栄養化問題に代表されるように、水質問題が一般的な課題でした。今は生物の多様性問題、水辺の生態系や外来魚問題など、テーマが大きく様変わりしています。流域全体をいかに保全するか、山から湖、下流の海までの流域全体を考えないとダメだとか。人間の遊び、生活との関わりの中で問題が起こっているのではないかという認識にまで進んでいます。これを単に研究者が発表するのではなく、市民や企業も一緒になって議論しようということになって

います。
●市民に期待することは、

深田 湖沼会議が環境保全活動を盛り上げるき

●藤井さんは企画委員として、また、琵琶湖セツシヨンの副部長として会議の立ち上げから参加されていますが、今回、市民サイドから見ると、世界湖沼会議をどのように見ますか。

藤井 初回の会議では、琵琶湖がこれまで経験したことがない「富栄養化」のことを、世界の湖沼に学んでどうやって解決したらよいかという明確なテーマがありました。その後、会議は世界各地を巡り、「富栄養化」のメカニズム解明、水位変動、毒性物質汚染、酸性化など研究者中心の学会的要素が強くなりました。その結果、市民が参加しているにもかかわらず、市民が直接近寄りやすい形で動いてきました。21世紀のスタートの年ですし、またアジアの中の日本で開催するので、今回の会議には、先進諸国だけでなく開発途上国の方々にも集まっています。ただ、21世紀の水環境問題をどう解決するかを議論できる場にしたと思うっていました。さらに、研究者会議の色彩が強くなった会議を産官学民、四者がどう創りあげていくかという形にぜひ持っていきたいと企画委員会で提案してきました。しかし形はできましたが、市民み

っかけになると同時に、私たちの生活のあり方を見直す新たなムーブメントとして続いていくことを期待しています。すでに72カ国1,000

んなに会議で議論ができるという意識はまだまだ遠いんですね。「琵琶湖に集まって、今、この問題を議論します」という形になっていない。中心軸が多様になっているから拡散してしまうというのと、これまで開催されてきた湖沼会議のフィードバックが弱いということが原因だと思っています。研究者は日常的な交流の中で動きが見えています。肝心の地域に暮らしている人たちに同質のフィードバックがほとんどないので、多様なテーマへ全面展開していくことで、かえって会議を見えにくくしている可能性もあります。

●会議後、県内の市民団体はどうなっていくべきだと思いますか。

藤井 会議に参加した市民は、琵琶湖が様々な問題を抱えていることの再発見とともに、世界

0名を超える人に参加登録をさせていただいています。一人でも多くの方が参加し、議論に加わっていただければと思います。

各国の環境状況を見聞きすると思います。そこから、市民サイドのより細かな民際外交ができるといふ交流軸がほしいですね。今、国同士の関係が非常に危ういことになっているので、むしろ、環境を軸に民間が交流することで国際関係が良くなると思います。私たち市民は交流を通じて、自分たちの問題意識がまだ非常に浅いことやもっと専門性を持たないといけないことに気づくだろうし、専門性を持つためにどのようなネットワークをつくらないとダメかも学ばさうし、そういった様々なことを世界湖沼会議は気づかせる場になると思います。湖沼会議は開くことが目的ではなく、その後、会議から学んだことを地域にどう持ち帰るか、どう語れるか、琵琶湖の周りにどれだけNGOが育っているかが試される場だと思っています。琵琶湖の発信力を持ちつつ、相手に学ぶという、そういうものを持つ機会になってほしいと思います。そして、それは参加することではできません。本会議だけでなく、各地域では自由会議が開催されます。それらに参加し、自分も「そうだ、こんなことをやってみよう」ということを探したらどうかと思います。

滋賀県環境生活協同組合理事長

藤井絢子さん



私たちががんばっています！

NPPO

どういうふうにしたら、もっとみんながイキイキと元気に暮らせるか—そんな素敵な夢を現実のものにするために、日夜奮闘しているNPPOの皆さん。環境・福祉・子ども・まちづくりetc. . . . 滋賀県に新しい風をおくるフレッシュな市民活動をご紹介します。

地球規模の思考で、地域で行動する人に。そんな仲間をもっと増やしたい。

●びわこネイチャーゲームの会

「ネイチャーゲームを通して今の社会の中で何が必要なのが見えてくるんですよ」。びわこネイチャーゲームの会の辻田さんはあつく語ってくれました。

●「びわこネイチャーゲームの会通信」年6回発行。



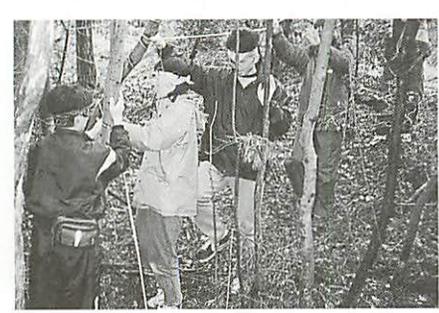
ではなく、五感で感じることから始めることに興味を抱いたそうです。単に自然とのふれ合いだけでなく、まらなるところに

同会の目的は、自然とのふれあいプログラム・ゲームを通じて、自然からいろいろな発見をってもらうことにあります。例えば、樹木の鼓動を聴診器で聞いたり、ビンゴゲームで森の不思議さがしをしたりします。

「虫がさわれない」「きのこが臭くてネバネバでイヤ」という子ども達が、ゲームを通じていつのまにか自然の仲良しになるんですよ、と辻田さん。

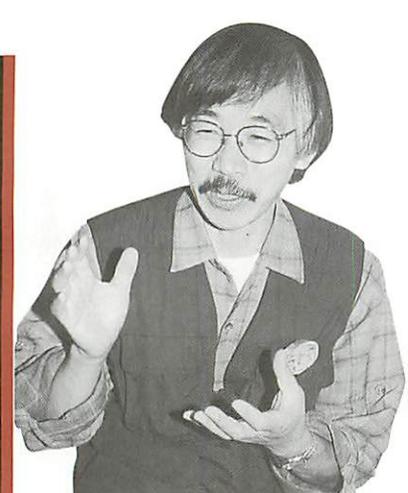
その辻田さんとネイチャーゲームの出会い、自分ができる自然保護は何かを考えたことからだと言います。環境問題を考えた時に、知識から入るの

●ネイチャーゲーム「目かくしトレイル」の様子。



「地球規模の思考で、地域で行動する人になれとよく言われます。そんな仲間をもっと増やしたいです」と話される辻田さんのこの言葉が、共感する多くの人たちにも伝わり、仲間が増えることを期待します。

(編集ボランティア) 池田陽子



●実は中学の国語の先生という辻田さん。

びわこネイチャーゲームの会

代表：辻田良雄さん
連絡先：大津市坂本6-2-33
電話・FAX：077-579-6659
設立：1992年
会員：34人

S P O T L I G H T

伝統食は人々の暮らしから生まれたもの。
日本人の歴史・文化としても、
のこして行きたいですね。 ● 滋賀の食事文化研究会

10年前、「日本の食生活全集、聞き書滋賀の食事」が刊行されました。県内各地の農村、山村、商家など、大正昭和初期の頃の食事を調査、紹介したもので、民俗学、農学、家政学、生活改良普及員や栄養士の方など13人が担当。この本が縁で1991年春、「滋賀の食事文化研究会」が発足しました。「滋賀特産の『なれずし』とか、自然科学の分野から『食』に興味を持っていましたが、この本づくりで人間としての歴史や文化など、民俗学の分野から『食』を考えることを知りましただね。」と代表の滋賀大教授堀越昌子さん。

生活の知恵ですね。伝統食は消えつつありますが、栄養面だけでなく文化としても消えてしまうのはとても残念です。「活動10年目のこの春、『食事博』を開催、様々なイベントと滋賀の食事を110点を披露しました。レシピ本も近々発表する予定です。「料理教室など子どもたちが『体験』できる機会を持ちたいですね。」ターゲットは次世代の子どもたちです。(編集ボランテニア 松井由美子)

滋賀の食事文化研究会

代表：堀越昌子さん
連絡先：大津市平津2-5-1
滋賀大学教育学部 堀越研究室
TEL：077-537-7807
FAX：077-537-7807
設立：1991年
会員：110人



● 毎年1回発行の年報「滋賀の食事文化」。会員が足で集めた食情報がぎっしり。

伝統食の材料や料理法を次の世代に残して行こうと、テーマを決めてメンバーが調査、学習、研究し、2ヶ月に一度の会報と例会、年に一度の年報を発行しています。「ふなずしの謎」「お豆さんと近江のくらし」「くらしを彩る近江のお漬物」「近江の飯・餅・団子」など、研究をまとめた4冊が単行本として発行されました。「お肉を食べなくても魚や大豆でタンパク質を摂取できるし、湖魚や野菜がたっぷり取れた時は“漬ける”ことで保存する、



● 「教育」の分野にも力を入れたいという代表の堀越昌子さん。

● 町のあちこちに昔ながらのたずまいが見られる。



には屋号を記した看板を設置、現在も継続中とのこと。設置した石柱は55本、屋号の看板は159枚にのぼり、町を歩く人にも印象深く好評だとか。

古くから東海道の宿場として栄えてきた甲賀郡土山町で、その歴史ある町並みと文化を保存しようと設立されたのが「土山の町並みを愛する会」です。1990年の発足以来、「住む人が誇りと愛着を持って生きられるような町にしたい」との思いで活動を続け、町並み整備などの事業を通して歴史が伝える文化の伝承に努めています。会はもともと1988年から始まった村おこし事業の一環として旗揚げされ、以後規模を拡大しつつ現在では会員数170名を数えるまでになりました。活動を始めた当初は歴史と文化を見直す事業として旧東海道筋の旅籠を調査、町からの委託により教育委員会の事業を継続する形で旅籠跡に旅籠名を刻んだ石柱を立てる事業を展開したり、また商家跡



● 街道沿いには旅籠のあった場所を表す石碑や屋号の看板が設置されています。

住む人が誇りを持って
生きられるような町に



● 代表の望月 保さん

活動を振り返ったとき、「当初は思うように町民の理解が得られないこともあった」と回想する望月保会長。しかし次第に会の存在も知られるようになり、事業に対する理解も得られるようになったそうです。1997年より古人が土山について詠んだ俳句や漢詩等を調査し石碑に記す事業も行っており、現在は林 鷲峯(がぼう)などの古人の想いを偲ばせる石碑を四本建立。また、設立当初から発行されている会報紙「土山ろまん」も年2回のペースで順調に発行され、さきごろ会の活動の記録として10周年記念冊子にまとめられたところです。目下の悩みは若い方の参加が少ないことだそうで、学校や地域との連携を試みるなど、若い方の参加を増やすことが今後の課題ということです。

土山の町並みを愛する会

代表：望月保さん
連絡先：甲賀郡土山町北土山1737
土山町商工会館内
電話：0748-66-0354 FAX0748-66-0994
HP: <http://www.21century.ne.jp/npo/shiga/utiyaama/index.htm>
設立：1990年
会員：170人

● 土山の町並みを愛する会

NPO交流会inぎふ

～岐阜県内の市民活動団体、NPOとの交流を深めませんか～
センターでは、県外の団体との交流を行い、活動の視野を広げ、NPOの広域なネットワークづくりを目的とした県外交流会を開催しています。今年は、お隣岐阜県のぎふNPOセンターを拠点に活動している市民活動団体、NPOを訪ねます。詳しくは、センターまで。
【日時】平成13年12月1日(土)～平成13年12月2日(日)

「2001年度版 淡海NPOデータファイル」発行

県内の市民活動グループ609団体を市町村別に分け、団体・グループ名、代表者名、連絡先、活動内容などを掲載しています。公立図書館や市町村の窓口でも閲覧できます。1部700円(送料別)で販売していますので、ご希望の方はセンターまでお申し込みください。



淡海ネットワークサロンはじまります！

市民活動の様々なテーマを少人数でゲストを交えて自由に語り合う淡海ネットワークサロンを県内各地で開催します。今年度のテーマは、NPOと仕事、町家の保存、子どもと本など様々です。内容、日時等は、センターホームページをご覧ください。皆様のご参加、お待ちしております。

遊びながら、滋賀の自然やエコライフが学べるよ

【みず・みどり・みんなイキイキ元気カルタ】
1遊ぶ:カルタとしてゲームが楽しめるよ。
2学ぶ:札の一枚一枚に解説があるよ。
ふりがながついているので小学生も読めるよ。
3伝える:絵札は絵ハガキにもなるよ。
滋賀のこと、遠くの人にも紹介できるよ。
絵札はA6版フルカラー46枚、読み札はA7版白黒印刷45枚です。
カルタは、古紙100%再生紙にベジタブルインクで印刷されています。
【ご購入お申込方法】
カルタ1セット1,500円+送料270円を、
住所氏名、電話番号+ご注文セット数を明記の上、
●郵便振込口座:00900-6-51407
●口座名:Wind Noteまでお振込み下さい。
後日、郵送にてお届けさせていただきます。
【お問い合わせ】
みどりと絵本の企画舎WindNote
電話 Fax 0748-36-8531
E-mail:www-note@po.bcap.co.jp
URL:http://www.bcap.co.jp/www-note/



●第9回世界湖沼会議・自由会議

世界湖沼会議・自由会議
第9回世界湖沼会議の期間中およびその前後で、滋賀県内各地において、さまざまな自由会議が開催されます。会場、日程等詳細については、世界湖沼会議のホームページ (<http://www.biwako2001.com>) をご覧いただくか、同事務局 (電話077-528-3466, Fax077-528-4849) までお問い合わせください。

- 【シンポジウム・講演など】
- ・国際湖沼シンポジウム ～水といのちのいとなみ～
 - ・子ども湖沼環境会議
 - ・汽水湖、潟湖、浅い内湾の環境管理と賢明な利用を考える
 - ・下水文化と進化する下水道に関するシンポジウム・研究発表会
 - ・河辺林シンポジウム
- 【河辺の森から考えるみず・ひと・みどり】
- ・ゴミ問題 どうすればゴミは減るのでしょうか
 - ・琵琶湖周辺の市民環境教育と環境保全活動を考える
 - ・明日へつなげるエコロジカルアート・シンポジウム
 - ・湖岸の環境を考える
 - ・環境ホルモンに関する講演会
 - ・地球の温暖化と私達の生活を考える学習会
 - ・世界の流域管理型生物多様性保全フォーラム
 - ・世界の淡水域流域管理の流れとアジア・日本の実践例
 - ・湖南・甲賀ミズ湖沼会議
 - ・第9回世界湖沼会議山セッション
 - ・世界湖沼会議NGOワークショップわしたちが拓(ひら)く水の世紀
 - ・第9回世界湖沼会議 学生セッション
 - ・森と河、湖、海を結ぶ生態学を考えるシンポジウム
 - ・水をおもろ～環境保全のシンポジウムとデザイン
 - ・「よし!どこまでも行こう」プロジェクト
 - 【出張 環境トーク】
 - ・育てよう環境キッズ、環境市民

- 【展示】
- ・彫刻家 深田 充夫 日本画家 北村 恵美子 二人展-「地球の調和」
 - ・国連子供環境ポスター原画展
 - ・こども環境活動壁新聞展示会
 - ・第7回「夢けんせつフォトコンテスト」入賞作品展覧会
 - ・今昔写真でたどる琵琶湖・淀川と世界の湖沼百年写真展
 - ・松本泰山 びわ湖みず紀行展
 - ・湖沼の伝説 一中野晴生写真展
 - ・アメニティ写真展 「ごほく千人展」
 - ・矢口高雄原画展

- 【その他】
- ・湖童ピースバレード・愛と希望を伝えよう! 広げよう! 平和の行進
 - ・「近江のお菓」供養
 - ・湖童 KODOH
 - ・志賀町湖岸ウォーク
 - ・琵琶湖の未来たちをうたう (仮称)
ー加藤登紀子総合プロデュースコンサートー
 - ・エコツアー「秋の棚田と比良の巨木林」
 - ・自然ふれあい探検隊inマキノ高原
 - ・環境ウォークラリー
 - ・ピアレ・ルーチェ
ーオーガニックガラスを使用した環境あかりのルネッサンスプロジェクト
 - ・黒田征太郎といっしょに「水」を描く

編集後記

「有事には地元産の食材で生き抜かない」と堀越先生。確かに何が起るか分からない世の中です。冷凍食品や加工品など、便利な「食」は輸入品だらけ。食べなくなったから作らなくなった「米」は、いざという時に私たちを助けてくれる食材だと思うのですが、その時、誰も作り方を知らなかったりして・・・。
(編集ボランティア・松井)

滋賀県は環境に対する意識が高い、という声をよく聞きます。でもほんとうは、歴史的遺産が豊富な県でもあるの、という気もします。まちづくりのヒントは意外に身近なところにあるのかもしれないね。(編集ボランティア・江上)

ひさしぶりに取材に参加してつくづく感性が鈍くなったなーと感じた。多少のことでは驚かなくなった。めったに涙も出ない。すぐ、まーこんなんもなか、とあきらめる。しかし、世間で喜ばれていることもある。それは、あまり怒らなくなったので、被害を受ける人が少なくなったこと。でも、紛争の現場で怯える子供のニュースを見るたび心の震えるこの頃。ネイチャーゲームで子供に夢を与え続ける辻田さんに尊敬と感謝の気持ちを抱きつつ。(編集ボランティア・池田)

「おうみ市民活動屋台村」にご参加いただきありがとうございます。「屋台村」開催に際し、多くのグループ・団体の皆様方のご協力をいただきました。30日はあいにくの天気で、フリマや野外での催しが一部中止になりましたが、多くの方にご来場いただくことができました。「屋台村」をきっかけとしての新たな出会いや交流が、これからの皆さんの活動に更なる「元気」を与えてくれるものと思っています。(事務局 川勝)

●お詫びと訂正
おうみネット2001年9月号(No25)4ページの「認定特定非営利活動法人に係る税制上の特例措置の概要」の表中、2.(2)の②「相続税課税価格」が「【所得の25%ー1万円】まで所得控除可」となっていますが、正しくは「【不算入】」です。お詫びして訂正いたします。

淡海ネットワークセンター (財)淡海文化振興財団

■〒520-0801 大津市におの浜1-1-20
■TEL 077-524-8440 ■FAX 077-524-8442
■<http://www.biwa.ne.jp/~ohmi-net>
■E-mail:ohmi-net@mx.biwa.ne.jp
ご利用日時●月曜日と祝日の翌日を除く毎日(12/29～1/3を除く)
火～金曜日/9:00～19:00 土・日曜日、祝日/9:00～17:00

●淡海ネットワークセンターの情報交流誌「おうみネット」は次のところに配布しています。
・各県事務所、県民情報室、県内図書館、琵琶湖博物館、女性センター、文化産業会館、陶芸の森、草津コミュニティ支援センター、県社協ボランティアセンター、大津市生涯学習センター、さきほホール、滋賀銀行、郵便局(ボランティア貯金窓口)、公民館など



©無断転載を固くお断りいたします。

